

平成19年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野県内外の災害ボランティア交流学習会 長野県内と浜松（静岡）豊橋・豊川（愛知）の協働訓練と学習会
事業主体 （連絡先）	特定非営利活動法人 飯田ボランティア協会 長野県飯田市松尾代田1709-1 TEL 0265-52-9152
事業区分	安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	円（うち支援金：440,000円）

事業内容

県内外の災害ボランティア参集し顔の見える交流を図り、ネットワーク確立を目的とし学習会をした。講師に、長岡技術科学大学准教授 木村悟隆先生をお迎えし中越地震と中越沖地震の被災経験と、能登半島地震支援の経験を元に「中越沖地震で今何が起きているか」レスキューストックヤード事務局長浦野 愛さんに各地の避難所設営管理の経験から「避難所ってどんなところ？」—要援護者の視点で考える—の問題提起していただき参加者で意見を出し合った。



【講演風景】

自己評価（事業実施）【A】

事業効果

- ① 協働体性の確立
減災活動に向けて、行政、社協、ボランティア、市民が協働して取り組めたことが大きな成果だ。
- ② 当日参加者120名。多方面からの参加者がありアンケート結果から今後の行動へつながる感想、課題が多くだされた。
- ③ 県内外の災害ボランティアの顔の見える関係作り確立が出来た。
1、長野県外では、愛知県・静岡県災害ボランティア団体と、長野県内（飯伊地区内）では「長野県社会福祉協議会」はじめ下諏訪町・辰野町・飯島町等の災害ボランティアやボランティア団体と、顔の見える関係が出来ました。
2、飯伊地区では、行政・各町村社協はじめ、今までの関係作りのほかに、顔の見える関係作りが出来ました。

今後の取り組み

この、顔の見える関係作りは、大きな成果です。NPO法人飯田ボランティア協会では、各団体と協働しながら災害に強い街づくりを目指し今後も、活動していきたいと思っております

【目標・ねらい】

- 県内外の災害ボランティア仲間と顔の見えるネットワークの構築
- 中越沖地震の現在の実態を参加者が共有し、自分が地域に帰って何が出来るか考える。
- お互いが実態を知ることによってボランティア活動の充実を図る
- 行政と災害時に協働できる基盤の確立

自己評価（目標達）【A】

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70～89%「C」50～69%「D」49%以下で示すこと。